

地域住民の互助を創発する地域情報化に関する研究

佐藤, 忠文

<http://hdl.handle.net/2324/1937185>

出版情報：九州大学, 2018, 博士（芸術工学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：



氏 名 : 佐藤 忠文

論 文 名 : 地域住民の互助を創発する地域情報化に関する研究

区 分 : 甲

論 文 内 容 の 要 旨

本研究は、疲弊する日本の地域社会の再生を進めるために重要となる地域固有の情報資源に着目し、まちづくりの現場から地域情報化を再考することで、地域住民の互助を創発する地域情報化のあり方及び方法について論じたものである。そのために文化資源まちづくりに着目し、その発展過程と互助の関係に対する地域情報化の役割を問い直すことから始め、各地の地域情報化の方法を比較分析することで、帰納的に今後の地域情報化のあり方及び方法を論じた。

本研究は、序章及び終章と、本編 6 章で構成されている。

序章では、日本の地域社会が疲弊する中で、地域情報化による地域再生のあり方及び方法について再考が必要である状況を論じ、本論文の背景と目的及び構成について明記した。

第 1 章では、これまでの地域情報化の展開過程を概観したうえで、地域情報化とまちづくりの関係を明らかにした。そのうえで、地域情報化を再考するにあたり、まちづくり活動の現場から帰納的に検討する必要があることを明らかにした。

第 2 章では、調査地として人口約 5 万の熊本県菊池市を対象とし、先駆的な文化資源まちづくりへの参与観察から、その発展過程で互助が生み出されたプロセスを明らかにし、そこでの地域情報化の役割を考察した。

第 3 章では、菊池市の文化資源まちづくりにおいて、住民の互助の創出に寄与した対話型交流会「菊池まちづくり道場」について、運営に対する参与観察及び参加者アンケートをもとに分析と評価を行い、その特徴と課題を明らかにした。その結果、菊池まちづくり道場が対話の中から導き出される住民の知恵や経験といった文化資源情報を用いた地域プラットフォームであることを明らかにした。そして、その方法を「ダイアログ・プラットフォーム」と定義付けた。

第 4 章では、文化資源情報を用いた地域プラットフォームの課題であるアーカイブの視点から、2 章及び 3 章の考察結果を現況の地域情報化の展開に位置付けて検討すべく、文化資源情報のアーカイブに関して考察した。そこで、地域デジタルアーカイブの取り組みに着目し、それを地域振興型と住民参加型の二つに大別し、文献調査、事例調査を通して比較分析することで、その特徴と課題を明らかにした。

第 5 章では、引き続き 4 章で明らかになった課題である文化資源情報の利活用の視点から、2 章及び 3 章の考察結果を現況の地域情報化の展開に位置付けて検討すべく、文化資源情報の再利用策であるオープンデータ及びオープンリソースを対象に考察した。オープンデータの境界問題に着目することで、事例抽出から自治体による文化資源情報を再利用する取り組みを新たにオープンリソースとして定義付けた。そして事例調査から、再利用には住民との交流の視点が必要であることを明らかにした。

第 6 章では、以上の章で得た知見をもとに地域情報化のあり方を再考し、今後の方法について検討した。その結果、従来の地域情報化がコミュニケーション・メディアに偏重していたことを示し、地域住民との交流を通して文化資源情報の評価が重要であることから、今後の地域情報化では、スペース・メディアの再評価、アーカイブと再利用を促すコミュニケーション、住民が語る知恵や経験に対する政策的位置付けが必要であることを導出した。そのうえで地域情報化は、地域固有の情

報を評価し、資源化することで地域再生を図る情報資源化への転換過程にあると論じ、これらの視点から住民の互助を創発する地域情報化の具体的な方法について検討、提案した。

終章では、各章で論じて来たことを総括し、併せて本研究の知見をもとにスペース・メディアまでを含んだ多面的な地域情報化の実現について論じた。最後に今後の展望を述べた。

氏 名 : 佐藤 忠文

論 文 名 : 地域住民の互助を創発する地域情報化に関する研究

区 分 : 甲

論 文 内 容 の 要 旨

This study examines regional information technology from the perspective of mutual assistance and discusses its formation and development in creating mutual assistance among local residents in contemporary Japan, for the revival of the community. For this reason, this study focuses on relationship between town development process by cultural resources and mutual assistance and inductively considers the role of regional information technology by comparing and analyzing the methods of each region.

The paper comprises of the introduction, a body of six chapters, and the conclusion.

The introduction discusses the current situation of regional information technology needs reconsideration in the region exhaustion. And the background, purpose, composition of this paper are specified.

Chapter 1 outlines the development of regional information technology and reveals its relationship with town development.

Chapter 2 reveals the development process through participant observation for town development by cultural resources in Kikuchi city, Kumamoto Prefecture, Japan. In addition the investigation discovers the process by which mutual assistance among local residents is created and analyzes the role of regional information technology therein.

Chapter 3 evaluates and analyzes "Kikuchi Machizukuri Dojo" in town development by cultural resources in Kikuchi city and reveals the structure to create mutual assistance. From the analysis, the method is defined as a "Dialogue-Platform" and its features and issues are revealed.

Chapter 4 examines the archive of cultural resources information, to position the results of chapters 2 and 3 to the current situation of regional information technology. To enable this, regional digital archives were classified and analyzed to reveal their features and issues.

Chapter 5 investigates the reuse of cultural resources information, to position the results of chapters 2 and 3 to the current situation of regional information technology. The investigation reveals that communication with residents is necessary for reuse from "Open-data" and "Open-resources".

Based on the findings obtained in previous chapters, Chapter 6 reconsiders the ideal method of regional information, after discussing regional information technology was biased toward "Communication-media" and the important to evaluate cultural resources information by communicating with residents. As a result, the consideration revealed the necessity for "Revaluation of space-media." "Communication facilitating archiving and reuse." and "Policy position on the wisdom and experience of the residents". Based on these considerations, the author suggests a method of regional information technology that creates mutual assistance among local residents.

The final chapter summarizes the other chapters and highlights the realization of pluralistic regional information technology. Finally, a future outlook is showed.